

国際かんがい排水委員会 (ICID)
第66回国際執行理事会の対応方針等について

目 次

1. ICID第66回国際執行理事会の対応方針(案).....	1
---------------------------------	---

(参考資料)

参考－1 国際かんがい排水委員会(ICID)について.....	4
---------------------------------	---

参考－2 ナイリジ・ICID会長の来日の結果報告.....	6
-------------------------------	---

参考－3 第7回世界水フォーラムの結果報告.....	7
----------------------------	---

参考－4 世界の食料・農業用水(かんがい)を取り巻く現状・課題	13
---------------------------------------	----

1. ICID第66回国際執行理事会の対応方針(案)

1

1－(1) 理事会の概要

○2015年10月11日～16日、フランス・モンペリエにおいて、第66回国際執行理事会及び第26回欧州地域会議が開催。

○開催地



○プログラム

10/11(日)	10/12(月)	10/13(火)	10/14(水)	10/15(木)	10/16(金)
役員会議等	開会式				
	【国際執行理事会】 理事会会合、作業部会会合、ワークショップほか				
	【欧州地域会議】 論文発表ほか				

1－(2) ICID日本国内委員会の対応方針(案)

- ICID第66回国際執行理事会に関するICID日本国内委員会の対応方針については、9月25日(金)に開催するICID日本国内委員会会合において検討を行うこととしており、その結果を踏まえて、9月下旬から10月上旬にかけて農業農村振興整備部会における審議(持ち回り)を依頼する予定。

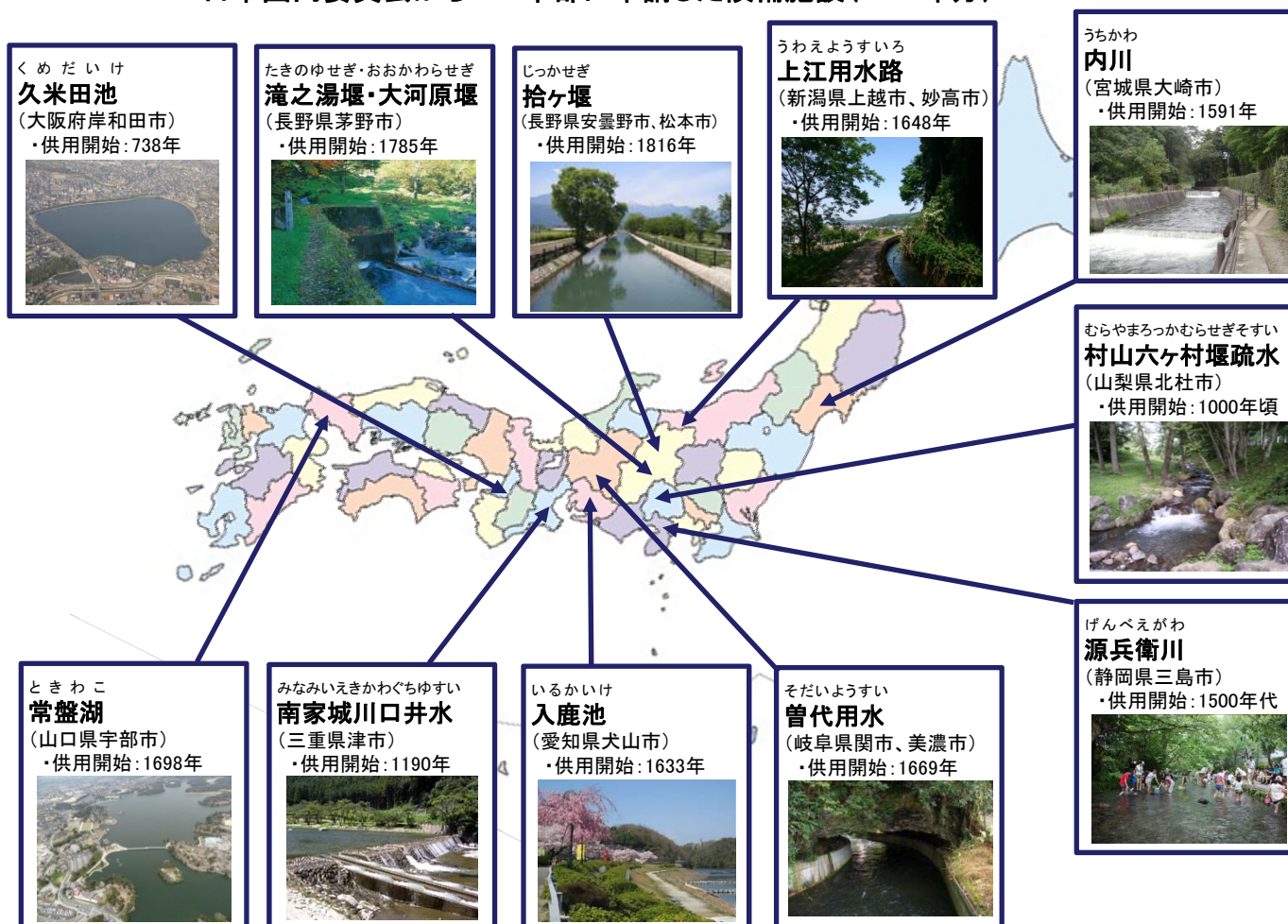
1-(3) かんがい施設遺産について [報告]

3

- ICIDは、歴史的かんがい施設を認定・登録する「かんがい施設遺産」制度を2014年より開始。2014年は日本の9施設がかんがい施設遺産に登録。
- 2015年分の登録に向けて、ICID日本国内委員会は、施設管理者等から応募のあった13施設から11施設を選定し、ICID本部に申請(7月)。ICID本部の審査委員会において審査・選定が行われ、10月の国際執行理事会において登録施設が決定される予定。
- 登録により、かんがい施設の持続的な活用・保全方法の蓄積、研究者・一般市民への教育機会の提供、かんがい施設の維持管理に関する意識向上に寄与するとともに、かんがい施設を核とした地域づくりに活用。

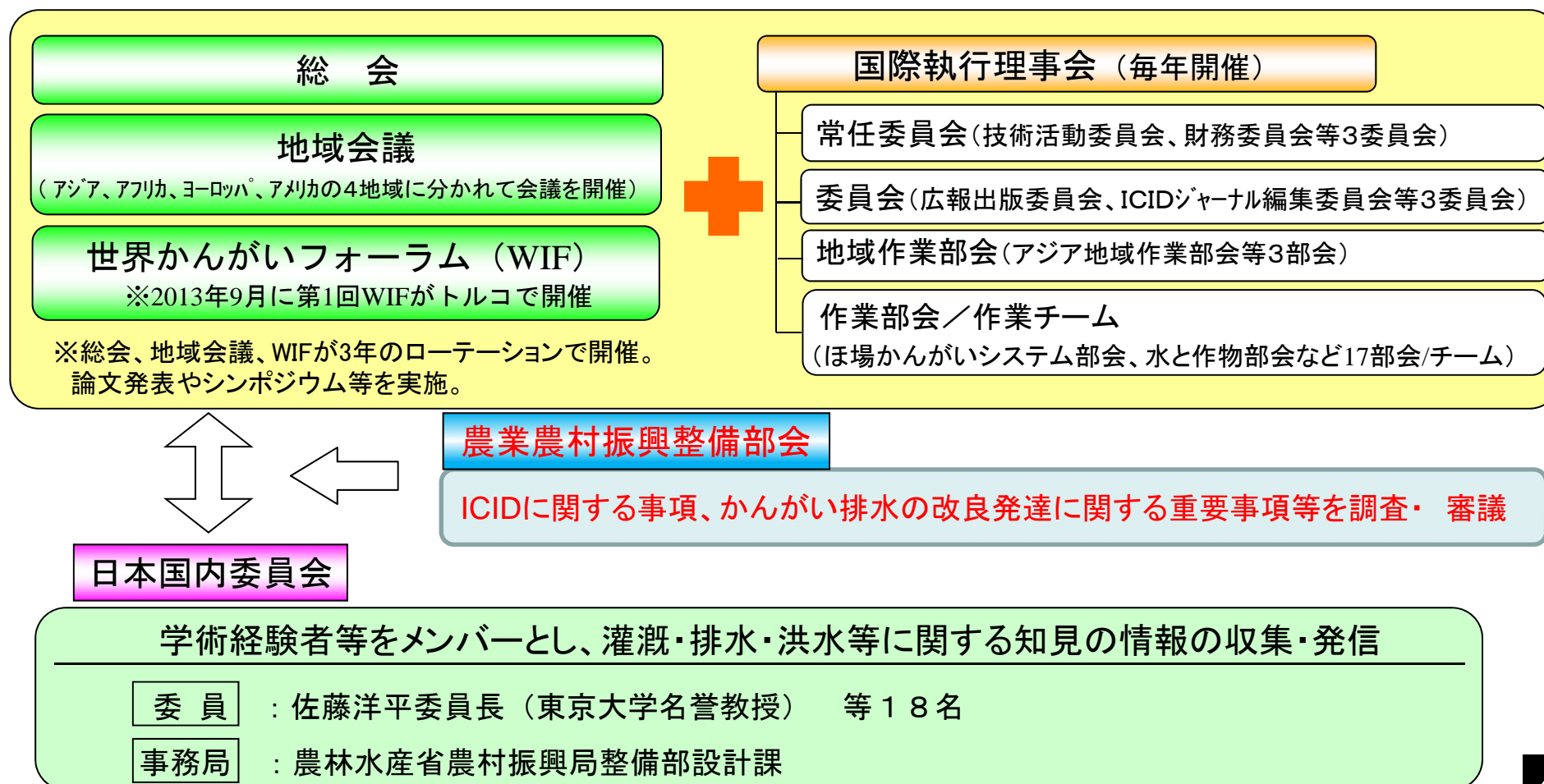
ICID日本国内委員会からICID本部に申請した候補施設(2015年分)

対象施設・登録基準
【対象施設】
○建設から100年以上
○次のいずれかの施設
①ダム(かんがいが主目的)
②ため池 ③堰、分水施設
④水路 ⑤水車 等
【登録基準】
○かんがい農業の画期的な発展、食料増産、農家の経済状況改善に資するもの
○構想、設計、施工、規模等が当時としては先進的、卓越した技術であったもの
○長期にわたり、特筆すべき運営・管理を行ってきたもの 等



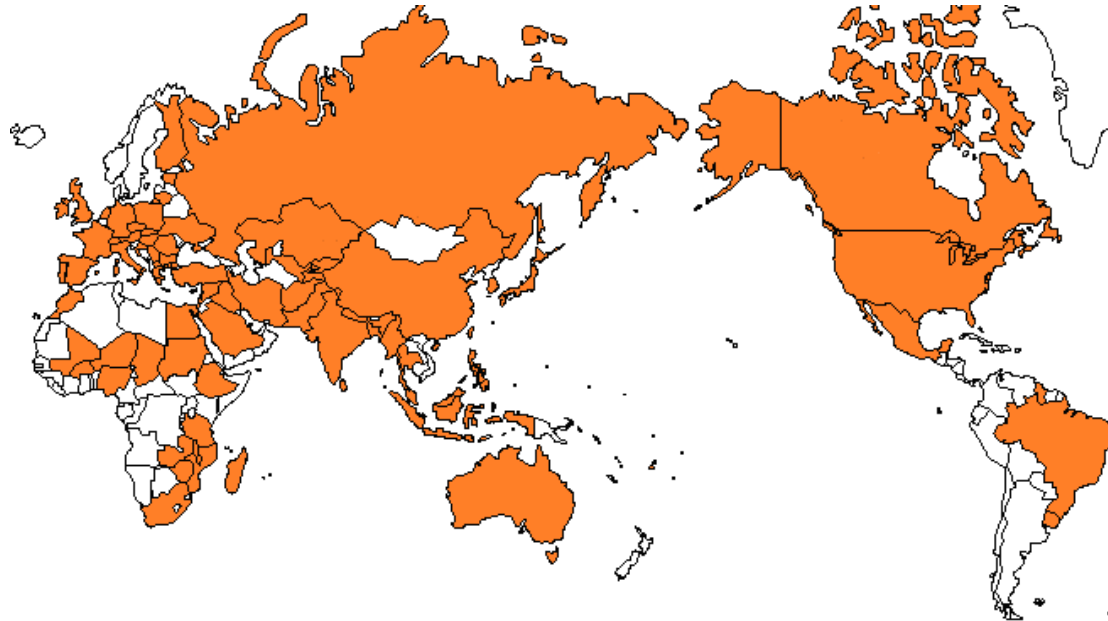
参考－１．国際かんがい排水委員会(ICID)について (ICID:International Commission on Irrigation and Drainage)

- 国際かんがい排水委員会(ICID)は、かんがい排水に係る科学的、技術的知見により、食料や繊維の供給を世界規模で強化することを目的として1950年に設立された自発的非営利・非政府国際機関(本部:インド(ニューデリー))。
- 毎年、国際執行理事会及び常任委員会や各種作業部会等が開催され、各国国内委員会委員が参加し、ICIDの政策・運営等に関する議論、技術・情報の交換等を行っている。
- 3年に一度、総会、地域会議、世界かんがいフォーラムをローテーションで開催。



○日本は ICID 日本国内委員会を設置し、1951年にICIDに加盟。日本国内委員会の委員による作業部会等での活動を通じ、我が国と世界のかんがい排水技術の情報を収集・発信し、世界の食料安全保障の確保等に貢献。

【ICID加盟国・地域の分布】



ICID加盟国・地域数 : 75

うち、アジア・オセアニア地域 27ヶ国・地域

アフリカ地域 16ヶ国

アメリカ地域 6ヶ国

ヨーロッパ地域 26ヶ国

(2015年8月現在)

(参考)ICID日本国内委員会委員

氏名	所属	役職
佐藤 洋平 【委員長】	中山間地域フォーラム 東京大学	会長 名誉教授
猪迫 耕二	鳥取大学農学部	教授
岩本 彰	NTCインターナショナル(株)	代表取締役社長
太田 信介	国際かんがい排水委員会	名誉副会長
奥島 里美	(国研)農業・食品産業総合 研究機構 農村工学研究所	上席研究員
久野 叔彦	(株)三祐コンサルタンツ	東京支社長
佐藤 政良	筑波大学	名誉教授
清水 克之	鳥取大学農学部	講師
角田 豊	(一財)日本水土総合研究所	総括技術監
丹治 肇	北里大学獣医学部	教授
長野 宇規	神戸大学大学院	准教授
八丁 信正	近畿大学農学部	教授
林田 直樹	全国農村振興技術連盟 日本ICID協会	委員長 会長
増本 隆夫	(国研)農業・食品産業総合 研究機構 農村工学研究所	領域長
丸居 篤	弘前大学農学生命科学部	准教授
山岡 和純	(国研) 国際農林水産業 研究センター 研究戦略室	研究コーディネーター
弓削 こずえ	佐賀大学農学部	准教授
渡邊 紹裕	京都大学大学院 地球環境学	教授

※(国研)は、「国立研究開発法人」を示す。

参考－2. ナイリジ・ICID会長の来日の結果報告

○2015年4月2日(木)～10日(金)、ナイリジ会長(イラン)が来日。

○小泉農林水産副大臣への表敬訪問、ICID日本国内委員との意見交換、記念講演会を実施。

○小泉農林水産副大臣への表敬訪問

小泉副大臣より、ICIDのかんがい排水分野での貢献への謝意、日本からのICID活動への積極的な貢献の継続について述べた。

ナイリジ会長より、第7回世界水フォーラムに対するICID日本国内委員会の活動への謝意、今後のICID活動での日本への期待が示された。



小泉副大臣への表敬訪問

○ICID日本国内委員との意見交換

ナイリジ会長より、各国に設置されている国内委員会の役割強化を重視していることから、これまでも大変大きな貢献をしてきている日本国内委員会に引き続き大きな期待が寄せられた。

○記念講演会

ナイリジ会長より、かんがいを巡る状況、今後の方向性等について講演が行われた。(日本ICID協会主催)



講演を行うナイリジ会長

参考－3－(1) 全体概要

○2015年4月12日(日)～17日(金)、韓国・大邱市及び慶州市において、第7回世界水フォーラムが開催。

○168ヶ国から約4万1千人が参加。日本からは、太田昭宏国土交通大臣、高橋ひなこ環境大臣政務官ほか、関係省庁（農林水産省、国土交通省、厚生労働省、環境省）、研究機関、関連団体、企業等が参加。

○スローガン Water for Our Future

○フォーラムの全体構成

- セッション(4つのプロセスにより実施)
 - テーマプロセス
(様々な水関連テーマに関する議論)
 - 政治プロセス
(水を政治的課題とし、政治的努力を促進)
 - 地域プロセス(各地域特有の課題に関する議論)
 - 科学・技術プロセス(水問題解決に寄与すべく
科学・技術の重要性に焦点を当てた議論)
- 展示会
- 視察ツアー 等



開会式でのパク大統領挨拶



開会式の様子